



南大阪平和人権連帯会議

沖縄現地学習会に行ってきました！

昌一金属支部 N

今回、昌一金属支部より私と他の一名で沖縄現地学習会に参加させていただきました。

JR弁天町駅に七時に待ち合わせし、K書記長（+娘さん）の車で送って頂きました。高速が空いていて約三〇分を着き集合時間には余裕でした。参加者が集合すると世話役のT氏とY団長から挨拶がありました。総勢十八名（初参加者九名、女性七名）の団になり、夫婦参加者が二組。出発までのモーニングに朝ラー

メン（あつさり味）を食し、書記長のお見送りを受け出発しました。飛び立った時は雲ばかりでしたが沖縄に近づくにつれて青い空と海が広がってきました。現地に着くとガイドの本村光雄さんとバスガイドの川端さんが迎えに来てくれていました。すぐに市内のホテルで昼食バイキングとなり、オリオンビール（瓶）を注文し、喉を潤している沖縄に着いたという実感が湧いてきました。昼食後、沖縄南部を巡りま

した。

戦後、村民が食料確保の農作業の為に米軍の命令で集められたこの一帯は、遺骨が放置されている状態なので、遺骨収集作業を要請したが、反米活動に繋がることを恐れ許可されず、一九四六年二月二十三日によろやく許可されました。遺骨は大きな穴が掘られたが収まりきれず、積み上げられ一つの大きな骨の山が築かれました。周囲から石をかき集め納骨堂が完成し、魂魄の塔と名付けられました。「魂」は「たましい」、「魄」は浮遊霊の意味です。魂魄の塔を中心に全国のすべ

ての都道府県の慰霊碑があります。唯一「沖縄県の碑」は存在しません。この「魂魄」が沖縄県の碑といえるかもしれせん。沖縄戦で死んだ約三万五千人の人々が軍民・人種を問わず葬られた沖縄最大の塔であり、戦後最も早く住民の手で作られ、平和への想いを込めた塔として、他府県の慰霊碑とは多少異質であります。そのまま歩いて荒崎（海岸）に行きました。海岸にでる道の所々にアスファルトがあり、これが海の中へ続いています。これは N T T の海底ケーブルだそうです。よく見ると N T T のマンホー



ルがありました。これには変な違和感を覚えまして。

アブリラガマ（糸数壕）は天然の洞穴を利用した避難壕で、沖縄戦の悲惨さを色濃く伝える戦跡でした。全長二七〇mもある壕の中には一〇〇人以上の軍民が避難して、民間人も二〇〇人以上、

南風原陸軍病院の分室として六〇〇名以上の重症患者も治療していたという大きな壕です。戦争末期には壕の中は死体だらけだったそうです。薄暗い洞穴の中は夏の暑い時期でも冷え冷えとしており、死体が腐るのを遅らせる役にも立ったそうですが、実際に入ってみると、じめじめとしていてとても人が生活する場所には思えませんでした。沖縄県の民間人の四人に一人が死亡した日本史上最悪の戦争が起こした悲劇の一端を感じることができました。

沖縄県立第一高等女子と女子師範学校女子部の

生徒たちはひめゆりをシンボルマークにしていたので、ひめゆり学園と呼ばれるていました。米軍の艦砲射撃は激しさを増し、予定されていた当日に、卒業式は行うことができませんでした。ひめゆり女子看護隊は軍と行動をともにすることが決定的になりました。三月二九日夜、三角兵舎内で臨時の卒業式が行われました。わずかなろうそくの灯りの中、卒業証書授与だけの簡素な式だったそうです。式の最中も、米軍の艦砲射撃は止むことがなかったそうです。四月一日米軍上陸し、三角兵舎にもいられなくなりまし

た。看護隊の女生徒たちも、二四号壕を後にし、第一外科・第二外科・伝染病棟、そして一日橋分院・識名分院というように、それぞれの病棟に配置されて行きました。戦後、第三外科壕跡に始めて建てられた碑がひめゆりの塔です。塔は後に建てられた物で美しいレリーフや大きさに目を奪われ、傍らにあるこの碑は見過ぎされてしまうそうです。米軍に追われ南部に逃れてきたひめゆり学徒隊は、この壕で解散命令を受けます。見渡す限り敵だらけの戦場に放り出されることになる日の前夜、この壕に米軍のガス弾が投

げ込まれます。ほぼ垂直に近い構造のこの壕では身を隠す場所もなく、第三外科壕の女生徒たちは戦場に散ったそうです。朴正熙の直筆が刻まれた韓国人慰霊塔があり、塔の後ろには、全国八道から集められた石で造成された墓が建っていて、前にはその魂が祖国に帰れるようにと韓国の方向を示す矢印が刻まれた石が設置されています。そして道路を挟んだ海側一帯に平和の礎（いしじ）があります。刻まれた沖縄戦の戦没者の名前は二四万人分を超え毎年、新たに確認された人が追加されています。県や市町

村の戦没者名簿にもとづき、平和の礎がつくられたのは一九九五年です。都道府県、市町村、字、国別に刻まれていました。名前の判らない家族はの妻、長男などと刻まれていました。沖縄ホテルにチェックインして直ぐに夕食を兼ねた交流会が例年通りの「あんつく」で開かれました。十八名の団員にバスガイドの川端さん、ガイドの本村光雄さんと、本村さんの所属している「語りつぐ沖縄平和の会」のメンバー女性三名（バスガイドOG等その中にガイドの本村ふみよ夫人



もいました」との交流を深めました。バスガイドの川端さんはバスガイド定年三五歳という矛盾に立ち向かって闘い、勝利して六〇歳定年を超え、再雇用の現役で働いています。当時の仲間との闘いが今の後輩達の見本となっているそうです。総勢二十三名が自己紹介やこの学習会の意見を語り合いました。もちろん沖縄の郷土料理とオリオンビール、泡盛、三年以上

の泡盛の古酒（クースー）で盛り上がりました。

二日目はせっかくの休日にも関わらず本村ふみよ夫人が特別ガイドとして参加され、夫婦お互いをフォローしながらガイドをしていただき、中部北側を指し示すの行程になりました。

嘉数高地の高台に登り普天間基地を見ました。市の全体の面積の約四分の一を占める広大なもので市の真ん中にドカンと居座っています。必然的に基地のすぐそばに住宅、学校、公園、競技場、オフィスなどを作らなければならなかったそうです。

緑がいっぱいの市内に基地がなくなったらより緑豊かな宜野湾市ができると思います。現地を見なければ沖縄県民の基地への怒りが実感できないと思います。そしてトーチ力跡を見学しました。バス移動途中で沖縄大学のヘリ墜落現場跡にも立ち寄りました。燃え残った一本の木と、ヘリのプロペラ（メインローターブレイド）の傷の残るコンクリートの壁がありました。やはり事故の傷跡は生々しかったです。

道の駅嘉手納の三階で基地に関する資料館とビデオ鑑賞しました。嘉手納飛行場は沖縄県五市町

にまたがるアメリカ空軍基地で単に嘉手納基地と呼ばれますが、日本の公的資料では「嘉手納飛行場」と呼称され、三七〇〇mの滑走路二本を有し、二〇〇機近くの軍用機が常駐する極東最大の空軍基地であり、在日空軍最大の基地で滑走路においては成田国際空港や関西国際空港と遜色なく、日本最大級の飛行場の一つということになります。面積においても、日本最大の空港である東京国際空港（羽田空港）の約二倍です。そして四階の展望台で違憲共闘会議議長・有銘さんから約四〇分、この基地を含めた沖縄米

軍基地、それに付随するお話をもらいました。平日なら飛行機発着時の爆音で話を中断しなければならぬそうです。その後二階で昼食を取りました。私達二人はケンミSHOWにも出たという一七八〇円のAランチ（えびフライ・白身魚フライ・トンカツ・ステーキ・ハンバーグ・ライス・スープ・サラダ）を堪能しました。

沖縄県読谷村役場には九条の碑が立っています。グランド・役所等を序々に米軍基地内に設置させて基地を返還させた経緯があるそうです。平和憲法を目に見えるものに、

そんな渴望が表れています。沖縄には憲法九条の碑が六カ所もあり、その一つがここだそうです。以前は後で行く金城実さんの彫刻が一〇〇mに渡り道路沿いに展示されていたそうです。途中で地元スーパー「かねひで」のお買物タイムとなり、島ラッキョウ、泡盛などをこぞって買い求めました。補助券でムーミンの皿と交換できるので、みんなが特別ガイドの本村ふみよ夫人に進呈して二個分以上交換できるとのことで大変喜ばれました。米軍が沖縄本島に上陸した直後に八五人が「集団自決」（強制集団死）等に追い込まれた読谷村波平のチビチリガマで命を失った犠牲者の冥福を祈り、沖縄戦や平和の大切さを新たにしました。

「遺族が高齢化する中で事実を伝え、戦争をさせないこと」と呼び掛けられました。他方、近くのシムクガマでは一〇〇〇人余りが非国民と呼ばれていたハワイ帰りの二人のリーダーによって米軍に収容されて生き延びたそうです。その後、金城実さん（彫刻家）のアトリエを訪問しました。本人不在でしたが夫人が対応してくれました。作品展が関西でも開催されるとの事でその案内をもらいました。長い間に積みもった悲しみや憎しみが作品になったというイメージを受けました。夕食までの約二時間で御土産物を物色しつつ、国際通りを散策しました。最後の晚餐会は「玄」でアグー豚焼肉の盛合せとオリオンビール・古酒（泡盛）で交流を深め、二次会にも繰り出し沖縄三味線と踊りを堪能しました。

三日目は小雨が降る中、中部南側を目指し高速自動車道を北上しました。二日後には不発弾処理が行われる一部区間が数時間程通行止めになるとい

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

う告知がされていきました。日常的にあるそうです。

辺野古の新基地現場に行き、現場で座り込みをしている安次富さんの話を聞きました。

辺野古の座り込みは、六月九日の時点で三七〇四日、約一〇年間闘いをしているそうです。知事は埋め立てを承認したが、沖縄県民はもうこれ以上基地を増やしてはならないという思いがあり戦争につながる基地にはノーだ。アメリカはいつでも引き上げてもいいという中、引き留めているのが日本政府だ。政府や閣僚は「戦争にならないために基地がある」というが

一般住民が犠牲になる。

基地経済といっても社交街には米兵は以前のように来なくなり地元住民が潤うといっても今では軍用地料くらいしかなく昔のように振興策に期待する人も減った。四一市町村が普天間即時閉鎖・辺野古移設反対と言っている。県民意識がまとまって「基地いらない」という環境になった。沖縄が一枚岩になって、基地をなくすチャンスであり、上からの圧力に屈しなれば実現できる。秋の沖縄県知事選挙が正念場だと言っていました。

昼食をきっかけ食堂で取りました。女優・黒木メ

イサの祖母の店でした。

沖縄そばと豚足をいただきました。今は昼間のみの営業で残念ながら年内の閉店廃業とのことです。それからフェンス越しに米軍キャンプ・ハンセン基地を見ると宿舎や軍用車両が見て取れました。道路からすぐ近くです。

沖縄本島北部にある米海兵隊の基地です。一九四五年四月下旬、沖縄に上陸し台地状の農耕地に約二〇〇〇mのコーラル敷滑走路を建設し「金武飛行場」を開設したのが米軍キャンプ・ハンセン基地のはじまりで、住民から無理矢理取り上げて建設した。自衛隊の米軍基

地内での訓練が増加する傾向にあり自衛隊と米軍の一体化の傾向は、集団的自衛権行使への具体化のはじまりだと危険視しています。

琉球王国時代、王都として栄えた首里に役所が置かれていた。首里城など王国時代の建造物の国宝指定や、郷土博物館市



立図書館の設置など、文教都市としての発展を図り、昭和一〇年代には、役所名も首里市庁と改めた。しかし、沖縄戦において、首里城地下の日本軍司令部壕（三三軍司令部壕跡）が置かれたため、壊滅的な被害を被った。

首里城の城壁から円鑑池に下るその途中に司令部壕跡がありました。中には入れませんが案内図（近年出来たばかりで文言が一部変わっているとの事）があり、総延長は二km近く。幅も四m、高さ一・八mで空気穴も

昌一金属支部

僕自身、自衛隊上がりで、自衛隊に居た時は、日の丸を背負って国の為にかと思っていました。今回沖縄平和学習会に行くと、本当に、戦争なんかあったら、自分が思っていた以上に想像を絶する事が起き、ましてや地上戦なんてあつてはならないことで、自分の甘さかなりわかりました。

これから、沖縄平和に何が出来るか自分なりに考え、少しでも、自分が出来ることを探したいです。今回、沖縄平和学習会に参加させて頂き、本当に感謝致します。ありがとうございました。

あります。司令官室、将校室もあり一〇〇〇人がいたらしい。こういった悲惨な遺跡こそ、公開して人々に覚えてもらいたいと思います。

歩いて数分の所の泡盛製酒所「瑞泉」ではビデオと一部見学、試飲と購入になりました。三種類の度数の泡盛と数種類のリキュールが試飲できました。最後に対馬丸記念館を見学しました。予約さえすれば数名しかいない生存者から話を聞けるとのことでした。米軍の潜水艦の魚雷により撃沈された対馬丸が発見されたにも関わらず、今もって引き上げられていない

て残念でたまりません。残り時間も少なく、ビデオと展示品を駆け足で見廻りました。最終日の午後は雨で残念でした。帰路のジェット機は美ら海水族館とのコラボ「ジンベエジェット」でした。ヘッドカバーや紙コップもジンベエ（オスとメス）の絵がプリントされていました。そしてJR関空快速で帰路につきました。

この報告の場ではありませんが、沖縄現地学習会に参加させていただき、大変ありがとうございました。